

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23310191

研究課題名(和文)「移動」から見た女性美術家と視覚表象の研究

研究課題名(英文)Studies of Woman Artists and Visual Representation from "Movement"

研究代表者

北原 恵 (KITAHARA, Megumi)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：30340904

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：このプロジェクトでは周縁化されてきた女性アーティストに焦点を絞り、ジェンダーの視点から、戦時中の女性画家の移動や、移民として国外に出た女性美術家について、包括的な調査研究を行った。研究は次の3本の柱から成る。戦争・植民地体験と女性アーティストの実証的調査(長谷川春子、赤松俊子、谷口富美枝ら)、東アジア圏の美術をめぐるネットワーク的移動の解明(朝鮮美術展・台湾美術展・満州国美術展など)、現代美術における女性美術家の調査。これらの研究の成果は、「アジアをつなぐ 境界を生きる女たち 1984-2012」展や「官展に見る近代美術」展などにも生かされた。

研究成果の概要(英文)： This project focuses on marginalized woman artists. I did research about their movements and activities of the woman artists who had moved out to oversea as emigrants or painters during wartime from a gender viewpoint.

This project consists of three parts: (1) An empirical investigation on woman artists, who experienced a war and a colonial lives (ex: Hasegawa Haruko, Akamatsu Toshiko and Taniguchi Fumie); (2) An analysis of their network in East Asia area (Korean art exhibition, Taiwanese art exhibition and Manchukuo art exhibition); (3) Contemporary woman artists. An outcome of these studies contributed the research for exhibitions, like "Women In-Between: Asian Women Artists 1984-2012" and ". "Toward the Modernity: Images of Self & Other in East Asian Art Competitions".

研究分野：複合新領域

キーワード：身体 表現 戦争 植民地 表象 移動 女性 美術

1. 研究開始当初の背景

ジェンダーの視点からの視覚表象や美術表現の研究は、日本では1990年代半ばから「イメージ&ジェンダー研究会」や、女性学学会、美術史学会、美学会、ジェンダー史学会などにおける継続的な個別発表によって、多くの蓄積がなされてきた。たとえば、『美術とジェンダー』（鈴木杜幾子・馬淵明子・千野香織編、1997年）『記憶の網目をたぐる』（香川檀・小勝禮子、2007年）など、従来の美術史を見直し、同時代の女性アーティストを発掘・紹介する著作が多数出版された。また戦争と視覚表象については若桑みどり『戦争がつくる女性像』（1995年）を先駆として、次世代の研究者が植民地下の美術に視点を広げ（金恵信『韓国近代美術研究』2005年）韓国の研究者との活発な交流を進めてきた。

日本の美術の学術分野における「移動」の視点からの研究は、カルチュラル・スタディーズやポストコロニアル理論の影響を大きく受けた他の視覚表象分析（映画や大衆文化研究）や文学研究などに比べて、著しく遅れていた。特に従来の研究では沖縄の女性アーティストや女性従軍画家の存在が抜け落ちていること、また、アジア・太平洋戦争下における台湾・朝鮮半島などの諸地域を対「日本」関係としてのみ見て、植民地間相互の関係を見る視点が欠落していることなどの限界が明らかになった。それゆえ本プロジェクトは、前プロジェクトの成果を基盤としつつ、「移動」という理論的枠組を導入することによって、その限界を乗り越える発展的研究として構想された。

本テーマを直接生み出した研究は、前述したように2008年度から2010年度にかけて助成を受けた科研費補助金研究「20世紀の女性美術家と視覚表象の調査研究 アジアにおける戦争とディアスポラの記憶」[基盤 B]である。多くの研究実績とネットワークを前科研から引き継ぎ発展させることができた。

2. 研究の目的

美術（史）研究では周縁化されてきた女性アーティストに焦点を絞り、ジェンダーと「移動」の視点から、戦時中の女性画家の移動や、移民として国外に出た女性美術家について調査研究を行った。

3. 研究の方法

具体的には、女性アーティストの表現・活動の歴史と実践の調査、周縁化されてきた彼女たちの活動の再評価による近現代の美術史・ジェンダー研究の再考、研究者・学芸員らとの研究交流を活性化しネットワークを形成することによる美術や表現現場の発展を目的としてプロジェクトを進めた。特に従軍女性画家や、植民地体験、海外への移民体験を持つ女性画家の調査は、同様のテーマで多くの蓄積を持つ文学研究や、「移動」

や「旅」をめぐるポストコロニアル研究の理論枠組を導入することによって、歴史的な時空間軸を用いた多層的な考察・分析を研究の中心課題とした。

4. 研究成果

これらの共同研究の結果、視覚表象とジェンダーに関わる海外の研究状況の把握し、東アジアを中心とした現代女性アーティストの活動について基礎的な調査を行うことができた。特に、強制的な移動を強いられた「従軍慰安婦」をめぐる視覚表象や、日本の植民地における美術については、最終年度に開催した国際シンポジウムの記録を、北原恵編著『アジア女性の身体はいかに描かれたか』（青弓社）として2013年に刊行することができた。さらに、広く研究成果を発信するために、ホームページも作成した。

<http://www.genderart.jp/>

また、本科研の分担者や協力者たちが企画・調査して開催した展覧会「アジアをつなぐ 境界を生きる女たち 1984-2012」展（栃木県立美術館他巡回）や、「官展に見る近代美術」（福岡アジア美術館他巡回）にも大きく貢献することができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

北原恵「アジアをつなぐ - 境界を生きる女たち 1984-2012 展」『REAR』30号 2013年8月

北原恵「『美』の実践的見直し 学芸員の仕事とジェンダー 『アジアをつなぐ - 境界を生きる女たち』展企画者、小勝禮子さんに聞く」『インパクション』188号、2013年1月、pp.144-157.

北原恵「『女性』がつなぐ、アジア・美術・周縁の人々 『アジアをつなぐ 境界を生きる女たち』展企画者、小勝禮子さんに聞く」『インパクション』187号、2012年10月、pp.162-175.

北原恵「ハルモニ達とともに、日本大使館を見つめ続ける ソウル「平和の碑」慰安婦像の制作者に聞く」『インパクション』185号、インパクト出版会、2012年6月、pp.162-173.

北原恵「放射能は色がついていないからいいのかもしれない...と深い溜息をつく イトー・ターリに聞く」『インパクション』183号、インパクト出版会、2012年1月、pp.138-141.

北原恵「遠近を抱えて の遠景と近景 戦後美術における天皇表象」『アート・検閲、そして天皇』沖縄県立美術館 検閲抗議の会編、社会評論社、2011年8月、pp.118-140.

北原恵「Inner Voices 内なる声」展 境界から、境界へ響く "アジア" の "女" の声」『インパクション』181号、イ

- ンパクト出版会、2011年8月、pp.144-148.
- 北原恵「社会に介入するゲリラアーティスト 日系アメリカ人アーティスト、スコット・ツチタニさんに聞く」『インパクション』178号、インパクト出版会、2011年、pp.106-119
- 北原恵「作者不詳の戦争画：戦時下東京を描いた絵を追って」『インパクション』192号、インパクト出版会、2013年、pp.76-85
- 北原恵「「官展にみる近代美術」展 担当・ラワンチャイクン寿子さんに聞く」『インパクション』195号、インパクト出版会、2014年、pp.110-124
- 小勝禮子「舟越桂 スフィンクスから《月の降る森》へ、聖なる混沌と人間をつなぐ」『REAR』第29号、2013年3月。
- 小勝禮子「アジアの、境界を生きる女たち展 女たちの多声合唱（ポリフォニー）」、「アジアをつなぐ 境界を生きる女たち展 1984 - 2012」展図録(和英併記、英訳：高橋美保子)、福岡アジア美術館他、2012年9月、pp.12-21.
- 小勝禮子「現代作家紹介 井上廣子 森に向かつて」『美術フォーラム21』第25号、2012年5月、pp.20-25.
- 小勝禮子「美術館の存在意義を問われる 3・11以後、2011年度春夏の美術館活動について」『ZENBI』、全国美術館会議、2012年1月、pp.23-24.
- 小勝禮子「前衛アーティスト林三従の履歴」、『林三従アート集成』、鳥影社、2011年10月、pp.6-9.
- 小勝禮子「Women's Art 沖縄って何？ 山城知佳子の演じるアート」、『We Learn ウィラーン』vol.702、日本女性学習財団、2011年10月、pp.12-13.
- 小勝禮子「Women's Art 歴史を超えた女どおしの絆 ユン・ソクナムの木の女性たち」、『We Learn ウィラーン』vol.701、日本女性学習財団、2011年9月、pp.12-13.
- 小勝禮子「Women's Art 戦後女性の生命の解放 桜井浜江の痛ましい絵画」、『We Learn ウィラーン』vol.700、日本女性学習財団、2011年8月、pp.16-17.
- 小勝禮子「展覧会を作る意味 - 心を鼓舞し、勇気づける美術体験 関谷富貴展、森口ゆたか展」、『視覚の現場 - 四季の綻び』第10号、2011年9月、pp.54-55.
- 小勝禮子「境界線上に立って 90~00年代に生きる女性の表現」『女子美術大学創立110周年記念事業 シンポジウム「現代アジアの女性作家」』女子美術大学、2011年5月、pp.68-79.
- ②①香川檀「写真スクラップのイメージ思考：ハンナ・ヘーヒ アルバム をめぐって」『武蔵大学人文学会雑誌：The Journal of Human and Cultural Sciences』45(3,4),2014年 pp.282-259, 2014年
- ②②香川檀「現代美術における 蒐集 の技法とジェンダー：コレクションの主観性/作家性」(特集 西洋美術とジェンダー：視ることの制度)、『言語文化』29、明治学院大学言語文化研究所、pp.226-246.
- ②③香川檀「アーカイブ・アートによる歴史的記憶の表象」『The journal of human and culture science』(武蔵大学人文学会紀要)42(3・4), 2011年3月
- ②④香川檀「ミュージアムとジェンダー 展示による経験の可視化をめぐる」長野ひろ子他編『歴史教育とジェンダ』 青弓社、2011年2月
- ②⑤Kaori Sakagami, "Japanese Images of Asian Women in "Traditional" Clothes in the Age of Empire", Aida Yuen Wong, ed., Visualizing Beauty: Gender and Ideology in Modern East Asia, Hong Kong University Press, 2012. p.101-112.
- ②⑥「「異端」のジャーナリストに聞く(NO.13) 私のアイデンティティをはく奪した番組改変事件」『マスコミ市民』527、2012年12月、pp.50-57.
- ②⑦「人をつなぐ しかけ としての協働的表現：その拠点としての大学の可能性を探る」津田塾大学ソーシャル・メディア・センタ、『つながるための しゅくみ をいかに作るか？ー協働的表現の実践とその可能性をめぐる』、2012年4月、pp.9-19.
- ②⑧「クリエイティビティを生かした『修復的アプローチ』の実践 英米の学校および表現活動の現場から」日本社会事業大学社会事業研究所、『修復的アプローチ：海外での取り組み報告書』、9頁～31頁。2011年12月
- ②⑨平田由美「殖民地的過去與後殖民的現在及未来」、『文化研究』第十四期、台湾国立交通大学、2012年9月、pp.163-178.
- ③⑩平田由美「列女」から「烈女」へ 近代日本の伝記における女性表象」、『タイ国日本研究国際シンポジウム報告書』チュラロンコン大学文学部東洋言語学科、2011年9月、pp.151-171.
- ③⑪金恵信「韓国近現代美術の女性作家」『女子美術大学創立110周年記念事業 シンポジウム「現代アジアの女性作家」』女子美術大学、2011年5月、pp.58-67.
- ③⑫金恵信「リアル・ワールドの切れ目を」『フィルムメーカーズ 個人映画の作り方』、金子遊編著(アーツアンドクラフツ2011年4月20日) pp.306-307.
〔雑誌論文〕(計 32件)
- 北原恵：招待講演会「戦争と文化 戦時下の天皇表象と日本美術」主催：高麗大学 KIEP(対外政策研究院)GSIS(国際大学院) 於・高麗大学(韓国)
北原恵：発表「「移動」から見る女性美術家」共同研究会共催：科研「「移動」から

見る女性美術家」(代表・北原恵)& ANU College of Asia and the Pacific、於・オーストラリア国立大学(キャンベラ) Megumi Kitahara, "What did Japanese Women Painters Represent During the War?: HASEGAWA Haruko's Wartime Activity and Postwar Oblivion," オランダNIOD 2014年6/11-13 ワッセナーNIAS「第二次大戦下および戦後のアジア・ヨーロッパにおける戦う女性」をテーマにした国際研究会で発表。主催はNIOD (Institute for War, Holocaust and Genocide Studies)と関西学院大学。

北原恵「戦時下の長谷川春子 1932~40年の活動を中心に」ジェンダー史学会第8回年次大会・部会F:パネル「女性美術家と戦争」(代表北原恵) 明治大学、2011年12月10日

小勝禮子、研究発表「戦時下の日本の女性画家は何を描いたか - 長谷川春子と赤松俊子(丸木俊)を中心として」 同前のジェンダー史学会

Reiko Kokatsu, "Women Artists in Wartime Japan: How to Appraise the Role of "Fighting Women" 前掲と同じ 坂上香「写真やパフォーマンスを使った表現活動『メディア4Youth』の実践から~表現活動を通じたエンパワーメントとゆるやかなつながり~」平成24年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会、日本アルコール関連問題学会シンポジウム、「依存症からのリカバリーと活動プログラム~当事者と提供者の視点から活動の意味を考える~」 主催:アルコール・薬物依存関連学会、札幌コンベンションセンター、パネリスト。2012年9月7日

坂上香「少年院と映像」 沖縄の「社会的包摂」に関するシンポジウム、主催:沖縄の社会的包摂を考える会、共生:沖縄シニアの会、沖縄県市町村自治会館、パネリスト。2012年3月31日。

坂上香「子どもから考えるケアとアートー 大震災を経て」クロストーク パネリスト 2011年11月26日。アートミーツケア学会 2011年度大会、主催:アートミーツケア学会、京都造形芸術大学、パネリスト。

坂上香、分科会「いのちの萌える場所へー 原発危機から、こども・動物・自然を考える」 アートミーツケア学会 2011年度大会、主催:アートミーツケア学会、日本ボランティア学会、京都造形芸術大学、コメンテーター。2011年11月27日。

Kaori Sakagami, "How the US Therapeutic Community (TC) Model Implemented in Japan: Reports on TC Practices in In-Prison and Community-Based Treatment. "

International Society for Criminology (国際刑事法学会)大会、主催: International Society for Criminology、神戸国際会議場、指定討論者。2011年8月8日

Yumi HIRATA, "Colonial Children in Postwar Japan: Displaced Identities betwixt and between", International Workshop on The Discourses and Memories on Trans-border Movements in Postwar Japan and Beyond, Department of Culture Studies and Oriental Languages, University of Oslo, 2011年8月29日

[学会発表](計 12件)

北原恵編著『アジアの女性身体はいかに描かれたか 視覚表象と戦争の記憶』(日本学叢書4) 青弓社 2013年1月

イトー・ターリ、レベッカ・ジェニスン『ムーヴ あるパフォーマンスアーティストの場合』インパクト出版会 2012年12月

坂上香

坂上香『ライファーズ 罪に向きあう』みすず書房、2012年8月、288ページ(『みすず』での連載「ライファーズ 償いと回復の道標」の書籍化)

小勝禮子『アジアをつなぐ 境界を生きる女たち 1984-2012』(展覧会図録)福岡アジア美術館・沖縄県立博物館・美術館・栃木県立美術館・三重県立美術館 2012-13年

香川檀

香川檀『想起のかたち 記憶アートの歴史意識』水声社 2012年11月

ラワンチャイクン寿子他『東京・ソウル・台北・長春 官展にみる近代美術』(展覧会図録)福岡アジア美術館他 2014年

[図書](計 6件)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.genderart.jp/>

表象／アート／ジェンダー研究

「移動」から見た女性美術家と視覚表象の研究：
Research Project on Representations,
Arts and Gender

6．研究組織

(1)研究代表者

北原恵 (KITAHARA, Megumi)
大阪大学文学研究科・教授
研究者番号：30340904

(2)研究分担者

香川檀 (KAGAWA, Meyumi)
武蔵大学人文学部・教授
研究者番号：10386352

小勝禮子 (KOKATSU, Reiko)
栃木県立美術館・学芸課長
研究者番号：80370865

金恵信 (KIM, Heshin)
大阪経済法科大学・アジア太平洋センター
研究員
研究者番号：30448948

平田由美 (HIRATA, Yumi)
大阪大学文学研究科・教授
研究者番号：60153326

(3)連携研究者

レベッカ・ジェニスン
(Jennison Rebecca)
京都精華大学人文学部・教授
研究者番号：30141485

児島薫 (KOJIMA, Kaoru)
実践女子大学文学部・教授
研究者番号：40195714

坂上香 (SAKAGAMI, Kaori)
津田塾大学学芸学部・准教授 (申請時)
研究者番号：60368066

水野僚子 (MIZUNO, Ryoko)
日本女子大学人間社会学部・准教授
研究者番号：30469209